

# 環境経営 レポート 2025



緑でネットワーク  
九州林産株式会社





# 目次

- |      |                        |     |                       |
|------|------------------------|-----|-----------------------|
| P1   | 会社概要                   | P8  | 環境経営方針3<br>自然共生社会への貢献 |
| P2   | 事業案内                   | P9  | 環境経営方針4<br>社会との協調     |
| P3   | 事業活動と環境経営の一体           | P10 | 環境経営方針5<br>環境管理の推進    |
| P4,5 | 2024年度<br>環境経営目標・実績・評価 | P11 | これまでの環境活動による成果        |

## <主な取組内容>

- |    |                      |     |                              |
|----|----------------------|-----|------------------------------|
| P6 | 環境経営方針1<br>脱炭素社会への貢献 | P12 | 代表者(社長)による全体の評価と見直し・指示       |
| P7 | 環境経営方針2<br>循環型社会への貢献 | P13 | 2025~2027年度<br>環境経営目標・環境経営計画 |

# 社長挨拶



## <当社企業理念>

**自然を守り、緑豊かな環境づくりを通して、社会に貢献します**

当社は、この企業理念に向け、森林管理事業や造園・緑化事業、官公庁所管施設の指定管理者業務など、自然環境の保全にかかわる事業活動を展開し、持続可能な社会の実現の一助となるよう努めております。2024年度は、特にペーパーレス化の促進によるコピー用紙の削減や、DX活用による業務プロセスの改善を行いました。今後も長年培った知見を活かしながら、事業活動と環境経営を一体のものとして着実に推進してまいります。

2025年8月

代表取締役社長 小塩 正己



坊ガツル湿原

# 会社概要

(2025/3/31現在)

社名 九州林産株式会社 代表者 代表取締役社長 小塩正己 資本金 4億9000万円 売上高 33億7200万円

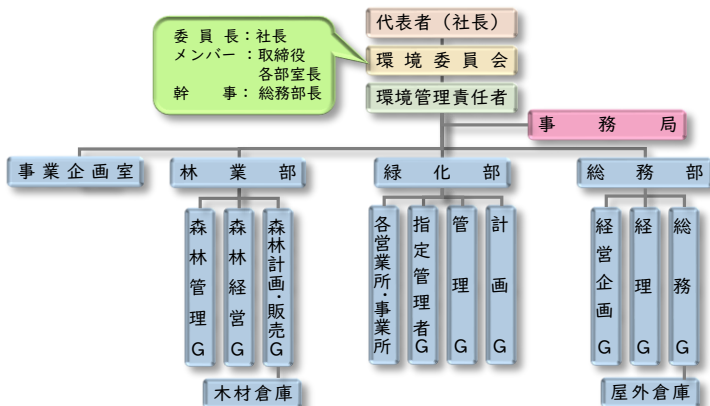
事業活動 土木工事業、造園工事業、とび・土工工事業、園芸事業、造林事業、木材事業、不動産賃貸業ほか

許認可 国土交通大臣許可 特3-第1615号 特定 造園工事業、特定 土工工事業、特定 とび・土工工事業

## 主な資格取得一覧

造園施工管理技士（Ⅰ・Ⅰ級補・Ⅱ級）	45名
土木施工管理技士（Ⅰ・Ⅰ級補・Ⅱ級）	36名
造園技能士（Ⅰ・Ⅱ級）	6名
測量士	1名
公園管理運営士	2名
林業技士	6名
森林情報士（Ⅰ・Ⅱ級）	5名
森林管理士	9名
森林インストラクター	2名
森林施業プランナー	3名
環境教育インストラクター	5名
ビオトープ管理士（Ⅰ・Ⅱ級）	6名
衛生管理者	2名
建設業経理士（Ⅰ・Ⅱ級）	13名

## エコアクション21（EA21）推進体制（対象範囲：全組織・全活動）



## 環境管理責任者

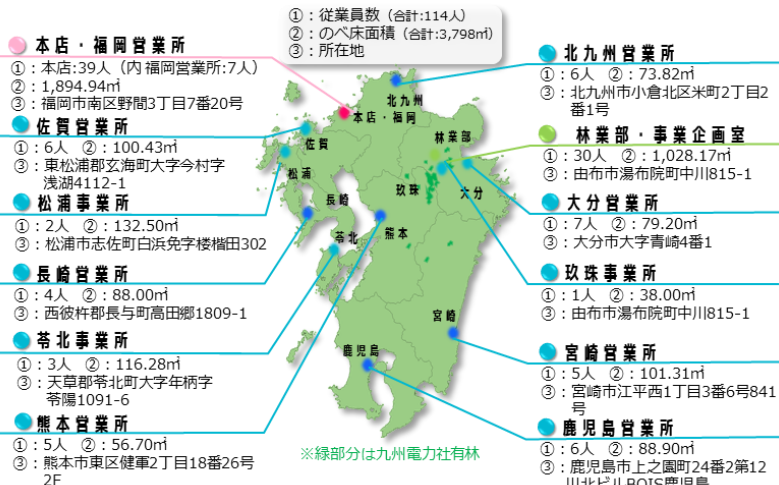
総務部 経営企画グループ  
グループ長 大原 雄二郎

## 連絡先

092-562-3014

## ホームページ

<https://www.q-rin.co.jp>



## 沿革

1919~

1919  
九州水力電気  
(後の九州配電)  
が大分県の実野  
造林に着手



1923  
自社生産苗による植林開始

1949  
九州配電(後の九州電力)の林業部門から  
分離・独立し、九州林産が発足!九州配電社  
有林の森林経営を受託

1965  
電柱が木製からコンクリート製に移行し、  
電柱材供給としての役割終了

1965~

1965  
造園・園芸事業に参入

1973  
九電グループ内  
での緑化・環境保  
全業務の実績を  
踏まえ、グルー  
プ外の造園工事や  
工場緑化へと事  
業を拡大



2005  
九州電力社有林がFSC®森林認証  
(FSC-C018956)を電力会社として初取得

2008  
・公園などの指定管理者業務へ参入  
・EA21 認証取得(本店)、翌年全社認証を  
取得

2014~

2014  
・「生物多様性ガイドライン」作成  
・環境教育の場として九州電力社有林内に  
「くじゅう九電の森」を整備

2016  
九電みらい財団と本格的な環境教育への  
取り組み開始



2021  
九州電力社有林でのJ-クレジット創出  
取り組み開始

2022  
早生樹の試験植栽開始



## 事業案内

### 緑化事業

#### ● 緑化工事



鉄塔の敷地保全、発電所や変電所の緑化工事、公共の公園整備などを施工しています。

#### ● 緑地維持管理



これまで手がけた緑地や公園等を適切に維持管理しています。

#### ● 指定管理者業務

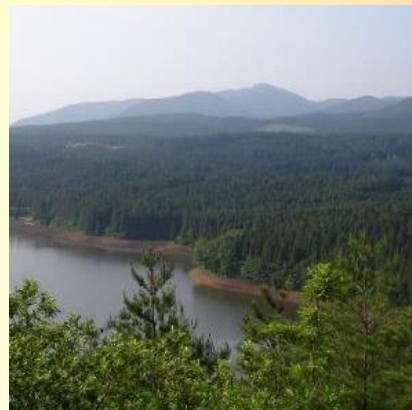
夜須高原記念の森



公営の公園・農園の管理運営を行っています。

### 林業

#### ● 九州電力社有林管理



九州電力社有林を適切に管理し、水源かん養、生物多様性の維持、CO<sub>2</sub>固定化に努めています。

#### ● 森林整備



安全性・生産性向上のため、高性能林業機械を導入し、国有林・県有林の伐採などの施業を行っています。

#### ● 木材販売



九州電力社有林や国有林・民有林などで生産した丸太や製材品を販売しています。



# 事業活動と環境経営の一体

## 企業理念

1

自然を守り、緑豊かな環境づくりを通して社会に貢献します。

2

技術力を高め、すぐれた製品とサービスを提供し、お客さまの信頼にこたえます。

3

創造力と行動力をつちかい、活気溢れる企業風土をつくりまします。

## 環境経営方針

制定日：2007年12月14日 改正日：2023年7月4日

### 1. 脱炭素社会への貢献

脱炭素社会の実現に向け、節電、節水、エコドライブ、高効率機器の活用等による省エネルギー・省資源化を推進し、事業活動に伴う温室効果ガス排出抑制に努めます。



九州電力社有林

森林面積 **4,447ha**

※福岡県小郡市とほぼ同じ面積

木材生産量 **10,820m³**

成長量 **29,472m³**

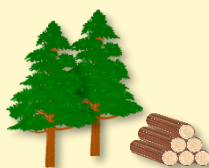
※人工林のみ

CO<sub>2</sub>吸収蓄積量 **144.3万t**

適正な間伐は、樹木の生長量の増加を促し、森林のCO<sub>2</sub>吸収機能の最大化へつながります。

### 2. 循環型社会への貢献

廃棄物の再資源化、グリーン購入の徹底、<sup>きりすて</sup>伐捨間伐材など未利用資源の有効活用等に取り組み、循環型社会の形成に貢献します。



パルプ材

合板材

建築材

端材等はバイオマス燃料として活用



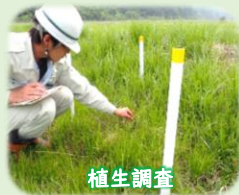
モザイク状複層林  
(次世代の大分森林づくりモデル林)

### 3. 自然共生社会への貢献

事業活動により環境に与える影響を低減するため、生物多様性への配慮や化学物質の使用抑制などに取り組み、自然と共生できる社会の構築に貢献します。



ヒメユリ



植生調査

### 4. 社会との協調

環境経営情報を積極的に公開し、ステークホルダーとの連携・協調により社会とのコミュニケーションを図ります。



環境教育の様子

### 5. 環境管理の推進

環境法規を守りながら、情報を共有し、全社で協力して環境マネジメントシステムの品質を向上させます。

九州林産株式会社  
代表取締役社長 小塩 正己

## SDGsの達成





# 2024年度環境経営目標・実績・評価

環境経営方針	環境経営目標					※1 実績	主な取組み内容	取組 評価	
1 脱炭素社会への貢献	温室効果ガスの排出抑制への着実な取組み	事業所における省エネルギー活動の推進	二酸化炭素排出量 (単位:t-CO <sub>2</sub> ) ※2		280 以下	238	・窓ガラスに遮熱断熱フィルム貼付 ・冷房28℃、暖房19℃に室温を設定 ・昼休みの消灯	○	
			電力消費量 (単位:mWh)		191 以下	191			
		運輸面でのCO <sub>2</sub> 排出抑制の推進	車両燃料消費率 (単位:km/ℓ)		14.0 以上	14.0	・エコドライブの実施 ・燃費ランキング表彰による当事者意識の醸成を実施	○	
			事業所における省資源活動の推進		上水使用量(単位:㎡)				707 以下
	カーボンニュートラルの実現	J-クレジット創出支援					・自治体等へJ-クレジット創出支援の実施と新規受注に向けた提案営業の実施	○	
	オゾン層の保護	規制対象フロンの回収徹底と代替化への取組み					・空調設備の定期点検を各所で実施	○	
	電化の推進	オール電化の推進					・オール電化PR資料を各所に配置	○	
社有車のEV化推進					・社有車のEV化、高速充電器の設置を検討	○			
2 循環型社会への貢献	廃棄物のゼロエミッション活動の展開	廃棄物・古紙リサイクル率の維持・向上への取組み	一般廃棄物発生量（紙類以外）（単位:kg）		1,306 以下	1,191	・一般廃棄物の分別徹底によるリサイクル促進 ・古紙リサイクルの徹底	○	
			産業廃棄物リサイクル率(リサイクル量/発生量)（単位:%）	オフィス・工場	95.0以上	100.0%			・産業廃棄物の分別徹底 ・廃棄物の再資源化 ・産廃マニフェストの適切な運用及び適正処理確認の徹底
				現場	95.0以上	99.9%			
		循環型社会形成に寄与する事業活動の着実な展開	間伐材有効利用率 (単位:%)		45.0以上	56.7%	・未利用材の利用拡大に向け、利用率向上と販路拡大に尽力	○	
	コピー用紙購入量削減		コピー用紙購入量削減の徹底		コピー用紙購入量 (単位:kg)	2,590 以下	2,151	・会議・研修資料のペーパーレス化、縮小・両面印刷、裏面利用を実施	○
	グリーン購入の徹底	事務用品（紙類、文具類）とそれ以外のグリーン購入の徹底		事務用品グリーン購入率(グリーン購入金額/総購入金額)（単位:%）	95.0以上	94.4%	・電子カタログ購買システムによるグリーン購入の徹底 ・事務用品以外も極力環境ラベル認定品の購入を徹底	○	
3 自然共生社会への貢献	環境保全の推進	自然共生社会の形成に寄与する緑化事業活動の展開	植林・植栽を含む緑化工事件数（単位:件）		40 以上	38	・積極的な提案営業が受注実績に結びついたが、若干の目標未達	○	
		生物多様性への取組み	希少種の保全活動		・希少種巡視活動を12回実施(25種を確認)			○	
			事業活動における環境リスクの低減		・施業前後にチェックリストで生物多様性に配慮すべき事項を把握・確認			○	
		化学物質使用量の削減		・代替物質の活用などにより、極力PRTR制度対象物質を抑制			○		
		環境上の事故及び緊急事態への準備・対応		・環境上の緊急事態を想定した訓練の実施			○		
		4 社会との協調	環境に関するコミュニケーションの推進	環境経営レポートの内容充実と積極的な公開・活用				・紙媒体から電子媒体への変遷により、HPを活用した効果的なレポート公開を実施	○
地域における環境活動の推進	地域に密着した環境活動への取組み				・社内外の清掃活動、計18回に延べ92人の社員が参加 ・九電みらい財団と協働し環境教育を計7回開催 (次世代向け276人・親子向け75人・その他7人参加)	○			
	環境教育の内容充実と自律的改善の取組み								
5 環境管理の推進	EMSの自立運用	事業特性等に応じたEMSレベル向上への取組み				・内部監査に併せた運用業務支援を6箇所まで実施	○		
	環境データの確実な把握と目標管理の推進	環境関連データの確実な把握と実効性の高い目標設定				・環境関連データの全社大での確実な把握 ・過去3年平均＋特殊要因を加味して、次年度の目標設定	○		
		環境経営目標等の達成に向けた各所での効果的な取組み				・取組状況も含めた環境経営実績の分析・評価を確実に実施し改善	○		
		環境会計データの確実な把握と活用				・環境経営のコスト及び効果を可能な限り定量的に把握・分析し公表	○		
	環境教育の実施及び環境情報の共有化	環境の情勢変化に対応した各種環境教育の実施・参加				・社外情報収集のため、九電グループ環境経営推進部会へ4回参加	○		
		九電グループネットワークの活用による環境情報の共有化							
	環境関連法令の遵守徹底	環境法規制等の特定				・環境関連法規等を特定し、遵守状況を確認	○		
環境法規制等遵守状況の確認・評価									

※1 〇の項目は現場の数字を除く

※2 二酸化炭素排出量は、以下の通り算出

- ・電力消費量に、九州電力の2022年度調整後排出係数（0.462kg-CO<sub>2</sub>/kWh）を乗じて算出
- ・ガソリン使用量・重油などの使用量にCO<sub>2</sub>排出係数を乗じて算出



# 実績グラフ(2013年度を基準とした実績・効果)※

※ 2013年度：国が定めたCO2削減目標（2030年度までに46％削減）の基準年度





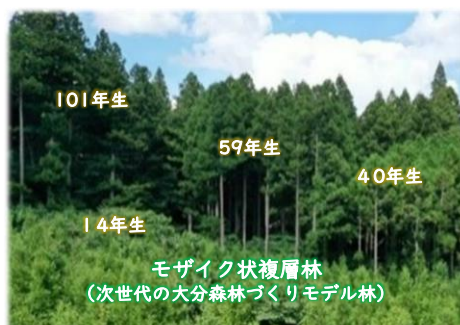
# 環境経営方針！ 脱炭素社会への貢献



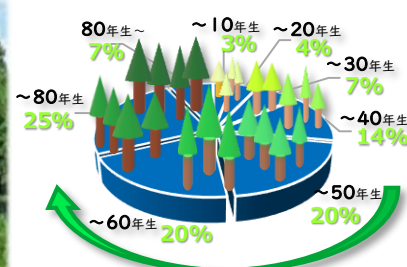
脱炭素社会の実現に向け、節電、節水、エコドライブ、高効率機器の活用等による省エネルギー・省資源化を推進し、事業活動に伴う温室効果ガスの排出抑制に努めます。

## 持続可能な森林経営

森林を50年・100年後の未来にも残せるように、持続可能な森林経営を実践しています。適正な間伐を通じて樹木の健全な成長を促し、森林によるCO<sub>2</sub>吸収力を高めています。また、間伐等で生産された丸太は市場や集成材・合板メーカーへ出荷、未利用材はバイオマス発電所向けに売却し、収穫・販売量を拡大することでCO<sub>2</sub>の固定化に寄与しています。(標準伐期：55年生以上)



九州電力社有林 林齢別面積割合



## J-クレジット制度の説明会の開催

2024年度は、熊本県森林保全課様からJ-クレジット創出支援事業を受託し、森林からのJ-クレジット創出に関する説明会を熊本県内の2地域で開催しました。



## 燃費ランキング

北九州営業所では、2015年度から車両燃費向上のため、独自に表彰制度を設け、所員全員で燃費改善に取り組んでいます。



## 環境経営レポート表彰

当社の事業活動と環境経営の取組みを「環境経営レポート」として取りまとめ、『EA21レポート大賞・九州』の表彰制度に応募し、様々な賞を受賞すると共に全国規模の『EA21オブザイヤー』の受賞に向けても挑戦をしています。※レポートのバックナンバーは、当社HPにてご覧頂けます。

2022



「九州環境カウンセラー協会特別賞」

2023



「九州地方環境事務所長特別賞」

2024



「選考委員会特別賞」

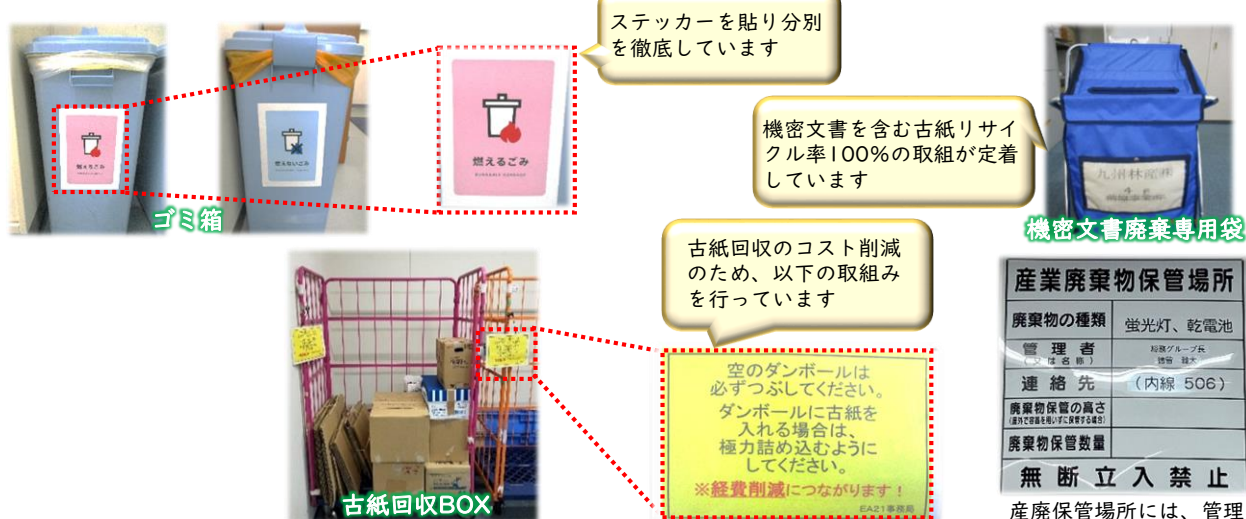
## 環境経営方針2 循環型社会への貢献



きりすて  
廃棄物の再資源化、グリーン購入の徹底、伐捨間伐材など未利用資源の有効活用等に取り組み循環型社会の形成に貢献します。

### 一般廃棄物の分別

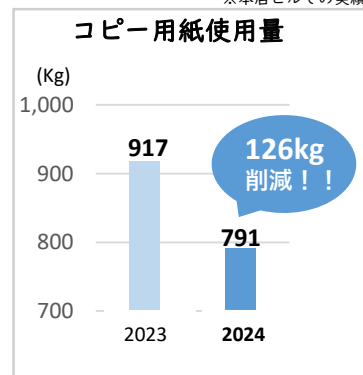
廃棄物のリサイクル率向上と発生量抑制に向け、各事業所が所在する自治体の基準に沿った分別の徹底に努めています。特に紙類については、グループ内のリサイクル会社と契約し、機密文書を含む古紙リサイクル率100%の取組みが定着しています。



### ペーパーレス化の促進

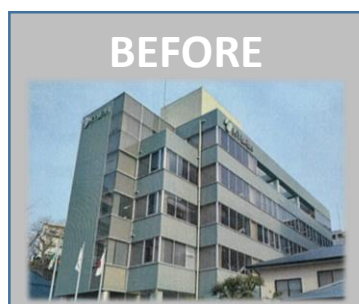
会議室に無線LANを設置し、会議や研修時の資料をパソコンで閲覧出来るよう環境を整備したことで、ペーパーレス化が大きく進みました。2023年10月から本格的にペーパーレス化に取り組み、2024年度のコピー用紙使用量は、前年比で約126kg (約14%) の削減となりました。

※本店ビルでの実績



### 本店ビル外壁修繕工事

本店ビルでは、老朽化が進んでいた外壁の修繕工事を実施しました。工事前は外壁に経年劣化の兆候が見られましたが、修繕による安全性・耐久性の向上により、建屋の長寿命化による長期的な省資源化とコスト削減を図りました。





## 環境経営方針3 自然共生社会への貢献



事業活動により環境に与える影響を低減するため、生物多様性への配慮や化学物質の使用抑制などに取り組み、自然と共生できる社会の構築に貢献します。

多様な生物育成環境の保全と事業活動がもたらす生態系への影響低減に向け、効果的な生態系の維持・回復対策の手法や手順、実施スケジュール等を「生物多様性保全ガイドライン」として取りまとめ、改善策の検討・提言に取り組んでいます。

### 希少種の保全活動（九州電力社有林内）

#### 巡視活動

九州電力社有林内に生息する希少植物の定期的な巡視活動を行っています。



アギナシ



サギソウ



チョウセンスイラン



トキソウ



ヒメユリ



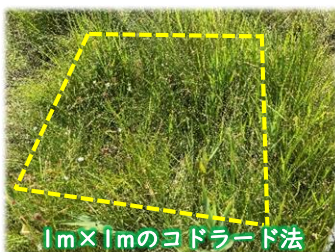
ミズオトギリ

#### 巡視活動で確認された希少植物24種（2024年度）

- ・アギナシ
- ・オオイヌノハナヒゲ
- ・カキラン
- ・クサレダマ
- ・コタヌキモ
- ・コバノトンボソウ
- ・サギソウ
- ・サワギキョウ
- ・シムラニンジン
- ・シラヒゲソウ
- ・タチカモメヅル
- ・チョウセンスイラン
- ・トキソウ
- ・ヌマクロボスゲ
- ・ノハナショウブ
- ・ヒメユリ
- ・ホザキノミミカキグサ
- ・ミカツキグサ
- ・ミズオトギリ
- ・ミズトンボ
- ・ミタケスゲ
- ・ミミカキグサ
- ・ムラサキミミカキグサ
- ・モウセンゴケ

#### 定点植生調査

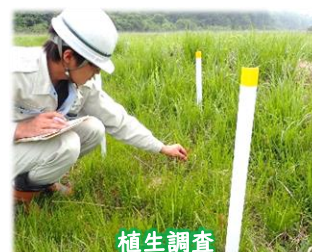
湿地帯の希少植物群生地においては、コドラード(区画)法による植生調査を行っています。シラヒゲソウ等湿生植物の個体数調査の結果、2024年度においても湿地帯の植生が維持されていることを確認できました。



1m×1mのコドラード法



シラヒゲソウ



植生調査

#### 定点写真観測

くじゅう地域の代表的な希少種であるミヤマキリシマの定点観測・調査をしています。また、支障木を伐採する活動を行っています。



2015年度



2024年度

2024年度は、シャクガの幼虫の影響が少なく、植生は回復傾向にあります🌱



環境経営情報を積極的に公開し、ステークホルダーとの連携・協調により社会とのコミュニケーションを図ります。

九州電力社有林の管理や官公庁所管の公園・農園の指定管理者業務の中で、地域の方々や地場企業、教育関係者、自治体の方々との協働による環境教育に取り組んでおり、参加される多くの皆さまと環境コミュニケーションを展開しています。

## 九電みらい財団の「くじゅう九電の森」における環境教育

九電みらい財団とともに、九州電力社有林を舞台とする環境教育に取り組んでおり、2024年度は開催回数7回、参加人数358人でした。



森の講話



間伐体験



森の役割実験

## 事業活動を通じた地域社会との協調

### 指定管理者施設における各種イベント

指定管理者施設において、地域に根付いた公園・農園の管理運営を行っています。各施設では、体験学習・ボランティア活動・収穫祭・スポーツ大会など、様々なイベントを開催しています。



芝生広場

筑豊緑地 とのオアシス



しいたけ駒打ち体験

今津リフレッシュ農園 IMAZU REFRESH FARM



やさい収穫体験

木もれ陽と、せせらぎと、緑の風と。  
OYASUO 夜須高原記念の森 YASU KOGEN KINEN NO MORI

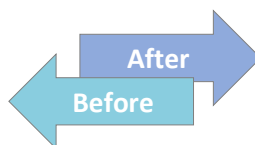


竹林整備&竹工作イベント

西南杜の湖畔公園 Seinanmorinokohan Park

### 合同清掃活動

2024年12月に近隣の九電グループ会社4社※合同で、塩原中央公園(福岡市南区)の清掃活動を実施しました。  
※九州高圧コンクリート工業(株)・九電テクノシステムズ(株)・九州電力(株)総合研究所・九州林産(株)





## 環境経営方針5 環境管理の推進



環境法規を守りながら、情報を共有し、全社で協力して環境マネジメントシステムの品質を向上させます。

### 主な環境関連法規の遵守状況

事業活動に関する環境関連法規の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。  
また、災害や事故に起因する環境関連法規に関するステークホルダーからの指摘や訴訟もありませんでした。

全社に共通	緑化事業に関係	森林管理事業に関係
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生物多様性基本法</li> <li>・ 建築基準法</li> <li>・ 温暖化対策推進法</li> <li>・ グリーン購入法</li> <li>・ 循環型社会形成推進基本法</li> <li>・ フロン排出抑制法</li> <li>・ 建設リサイクル法</li> <li>・ 浄化槽法</li> <li>・ 廃棄物処理法</li> <li>・ 家電リサイクル法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資源有効利用促進法</li> <li>・ 騒音規制法</li> <li>・ 振動規制法</li> <li>・ PRTR法</li> <li>・ 労働安全衛生法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 森林法</li> <li>・ 自然公園法</li> <li>・ オフロード法</li> <li>・ 消防法</li> </ul>

### 環境マネジメントシステム（EMS）レベル向上に向けた取り組み

#### EA2I 更新審査

EA2Iでは、当社EMSレベルの定着状況について第三者による審査を受けています。



#### 環境委員会

環境委員会を年2回開催し、環境活動実績の評価や見直し、環境経営計画や目標設定など審議・決定しています。



#### EA2I 環境経営レポート大賞・九州での受賞

2024年度環境経営レポートが「EA2I環境経営レポート大賞・九州」において、「選考委員会特別賞」を受賞しました。「分かりやすさ・見やすさ・読みやすさ」をテーマに、余白や色彩などを工夫し、シンプルで活用しやすいレポートであることが評価されました。



選考委員の方(左)から賞状を受け取る小塩社長(右)



受賞者の皆さんとの集合写真

#### 燃料漏れを想定した緊急対応訓練を実施

環境事故の未然防止の観点から、緊急事態を想定した訓練を実施しています。

1. すぐに鋸くずを散布し吸収！

2. 洗剤を散布●

3. ブラッシングし、安全に処理★



吸収した鋸くずは産廃処理します！

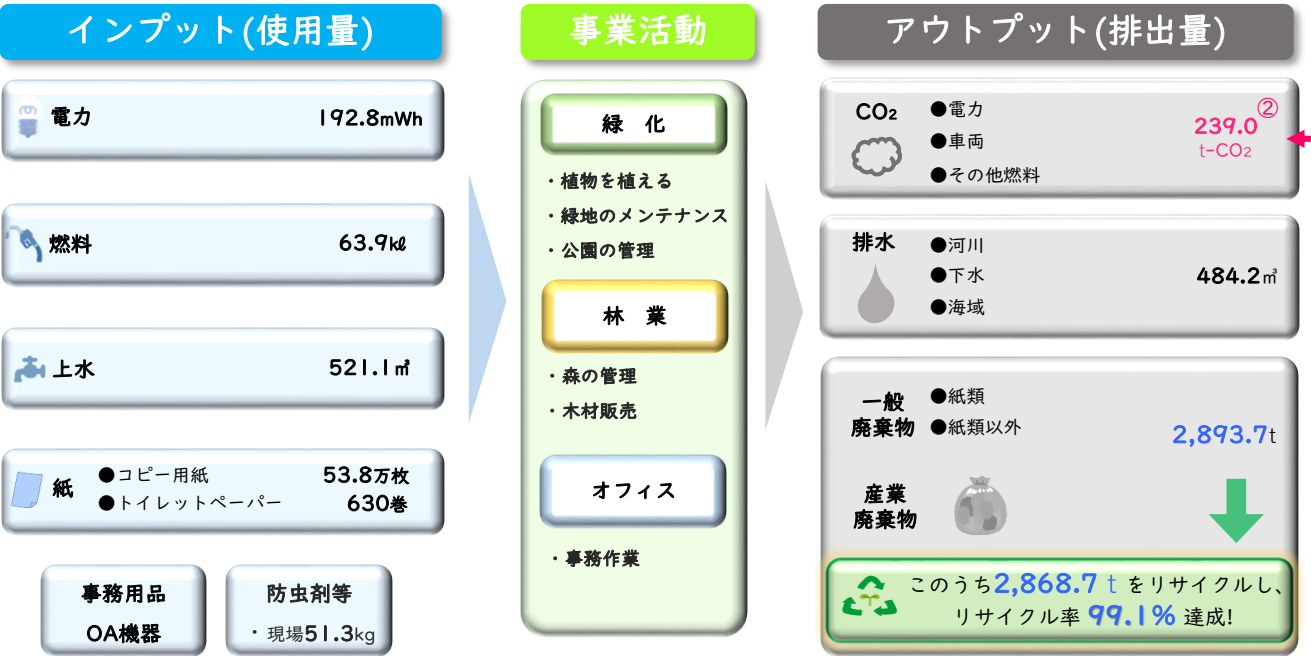
これまでの環境活動による成果 (現場実績含む)

コスト削減額 ※2013年度：国が定めたCO2削減目標（2030年度までに46％削減）の基準年度

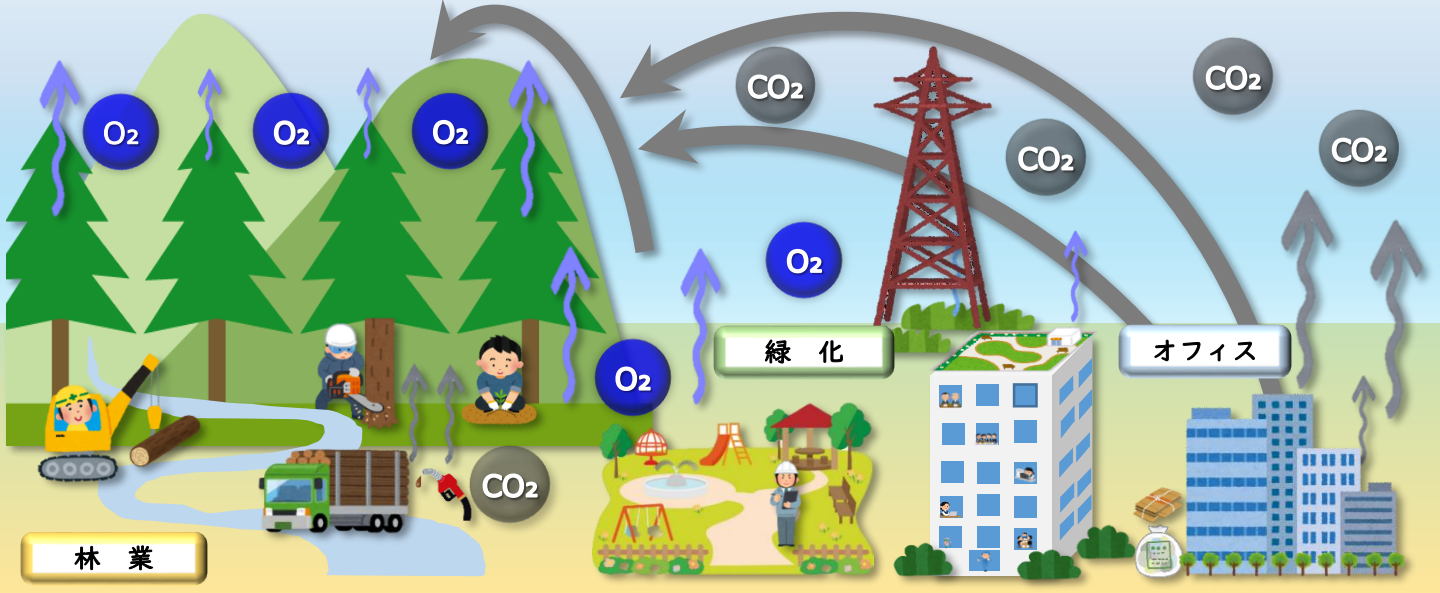
分 類	単位	物 量					削減額 (2013年差)	分 類	金 額 (単位：千円)					削減額 (2013年差)
		2013 ※ 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度				2013 ※ 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度		
電力	mWh	430.0	205.2	186.9	192.8		237.2	電力	14,100	6,727	6,129	6,321		7,779
車両燃料	㎔	93.91	72.7	70.1	62.9		31.0	車両燃料	16,538	12,905	12,485	11,232		5,306
その他燃料	㎔	3.8	11.5	4.5	0.9		2.9	その他燃料	427	1,280	507	109		318
水道	㎡	930.0	922.5	764.0	521.1		408.9	水道	379	376	312	213		167
廃棄物処分	t	384.0	129.6	66.0	25.1		358.9	廃棄物処分	384	351	107	138		246
廃棄物リサイクル	t	3,776.0	1,498.7	3,557.6	2,868.7		907.3	廃棄物リサイクル	4,174	4,323	4,648	3,821		353
								合 計	35,369	25,725	23,846	21,511		13,858

2024年度は、2013年度比※で、  
**13,858千円**削減！

マテリアルバランス (2024年度)



当社が長年管理してきた、九州電力社有林の2024年度末のCO<sub>2</sub>吸収蓄積量 **1,443,000<sup>①</sup> t-CO<sub>2</sub>**  
※当社事業活動でのCO<sub>2</sub>排出量(年間)の約**6,038**倍に相当 (計算式：①/②)







## 代表者(社長)による全体の評価と見直し・指示

環境委員会を開催し、2024年度の環境経営・環境活動に対して、代表者(社長)から以下の通り全体の評価と見直し・指示がありました。

### 全体の評価

環境経営方針に沿って、環境経営目標(定量・定性)とその達成に向けた取組みを示す環境経営計画が着実に実践されており、事業活動と環境経営を一体のものとしてしっかりと推進しているものと認識しています。

私たちの取組みは「選考委員会特別賞」受賞という成果で社外から一定の評価をいただきました。

### 見直し・指示

環境活動項目毎の評価及び見直しについて、引き続き環境活動の品質水準に磨きをかけていく観点から、以下の諸点を検討してください。

#### 環境経営レポートの活用について

DXが進展する中、引き続き当社とお客さま等とを繋ぐコミュニケーションツールとしての活用を図るため、紙面配布だけでなく、ホームページや九電「つながる」サイトへのレポート掲載など、ネット環境を活用した情報発信にも努めてください。

#### ペーパーレス化の促進について

業務資料の電子化を進め、ペーパーレス化の促進や紙資料回覧の削減等に引き続き取り組んでください。

#### 業務効率化について

効果的な取組みを進めていくとともに、環境関連業務の効率化にも取り組み、事業活動と環境経営の一体化を図ってください。

2025～2027年度環境経営目標・環境経営計画

環境経営方針	2025～2027年度							
	環境経営目標（各年度）					主な環境経営計画		
1 脱炭素社会への貢献	温室効果ガスの排出抑制への着実な取組み	事業所における省エネルギー活動の推進	二酸化炭素排出量(単位:t-CO <sub>2</sub> )		255以下	・空調の適温化(冷房28℃程度、暖房19℃程度)の徹底 ・パソコン・プリンタ等の不使用時電源オフの徹底 ・始業前、昼休み、残業時等における不必要照明の消灯 ・エレベーターの使用抑制及び階段利用の促進		
			電力消費量(単位:MWh)		187以下			
		運輸面でのCO <sub>2</sub> 排出抑制の推進	車両燃料消費率(単位:km/ℓ)		14.1以上	・車両更新時における低燃費車への計画的切替えの実施 ・エコドライブの確実な実施		
		事業所における省資源活動の推進	上水使用量(単位:㎡)		631以下			・節水意識を喚起するシールの活用などによる日頃からの節水の励行
	カーボンニュートラルの実現	J-クレジット創出支援				・自治体等へJ-クレジット創出支援の実施と新規受注に向けた提案の実施		
	オゾン層の保護	規制対象フロンの回収徹底と代替化への取組み				・法定点検を確実に実施。空調入替の際には規制対象フロンの確実な回収と代替化の取組みを実施		
	電化の推進	オール電化の推進				・お客さま来訪時に目に付く場所（本店玄関ホール）を活用し、オール電化のPR資料を配置		
2 循環型社会への貢献	廃棄物のゼロエミッション活動の展開	廃棄物・古紙リサイクル率の維持・向上への取組み	一般廃棄物発生量（紙類以外）(単位:kg)		1,219以下	・一般廃棄物発生抑制及び分別徹底によるリサイクル促進 ・古紙リサイクルの徹底		
			産業廃棄物リサイクル率(リサイクル量/発生量)(単位:%)	オフィス・工場	99.0以上			・産業廃棄物（水銀使用製品含む）の分別徹底 ・産廃マニフェストの適切な運用及び適正処理確認の徹底 ・機密文書、使用済蛍光管及び乾電池のリサイクルの実施
				現場	97.0以上			
		循環型社会形成に寄与する事業活動の着実な展開	間伐材有効利用率(単位:%)		50.0以上	・林地残材の有効利用率の向上、及び低質材の販路拡大に努める		
		コピー用紙購入量削減	コピー用紙購入量削減の徹底	コピー用紙購入量(単位:kg)		2,225以下	・会議資料や周知資料等のペーパーレス化を図る。	
	グリーン購入の徹底	事務用品（紙類、文具類）とそれ以外のグリーン購入の徹底	事務用品グリーン購入率(グリーン購入金額/総購入金額)(単位:%)		97.0以上	・電子カタログ購買システムによるグリーン購入の徹底 ・事務用品以外にも極力環境ラベル認定品の購入を徹底		
3 自然共生社会への貢献	環境保全の推進	自然共生社会の形成に寄与する緑化事業活動の展開	植林・植栽を含む緑化工事件数(単位:件)		40以上	・植林植栽を含む緑化工事の提案営業による受注に努める		
		生物多様性への取組み	希少種の保全活動		・定期的な情報収集とマッピング ・蓄積・分析したデータのステークホルダーへの提供など適正管理へ向け各種活動の展開・改善を実施			
			事業活動における環境リスクの低減		・チェックリストの活用・充実 ・各作業項目におけるチェックリストの活用による生物多様性へ配慮した施工推進並びに施業完了後の影響評価の実施			
		化学物質使用量の削減		・PRTR制度対象物質の使用量の把握（協力会社も含む） ・周辺環境への影響を最小限に留めるとともに、使用する化学物質の種類について代替物質の活用などにより極力PRTR制度対象物質の使用を抑制				
		環境上の事故及び緊急事態への準備・対応		・環境上の緊急事態を想定した訓練の実施および訓練終了後の検証・改善				
4 社会との協調	環境に関するコミュニケーションの推進	環境経営レポートの内容充実と積極的な公開・活用				・環境経営レポートを最新年度実績に基づき適切に更新		
						・環境経営レポートをコミュニケーションツールとして、当社ホームページ等にて効果的な公表を継続すると共に、協力会社・お客さまに各種イベントで配布するなど積極的にPRする。		
	地域における環境活動の推進	地域に密着した環境活動への取組み				・清掃活動、植樹活動などのボランティア活動への積極的な参加		
環境教育の内容充実と自律的改善の取組み		「くじゅう九電の森」を活用した環境教育の検証と改善(検証月数/開催月数)(単位:%)		100以上	・「くじゅう九電の森」を活用した環境教育の検証と改善を実施			
5 環境管理の推進	EMSの自立運用	事業特性等に応じたEMSレベル向上への取組み				・内部監査の際、EA21監査(運用業務支援)を同時に実施		
	環境データの確実な把握と目標管理の推進	環境関連データの確実な把握と実効性の高い目標設定				・環境関連データの全社大での確実な把握に努め、的確な目標管理と設定目標の実効性向上		
		環境経営目標等の達成に向けた各所での効果的な取組み				・環境経営目標の達成状況及び環境経営計画の実施状況、その評価結果を的確に活用し、取組状況も含めた環境経営実績の分析・評価を確実に実施		
		環境会計データの確実な把握と活用				・環境経営のコスト及び効果を可能な限り定量的に把握・分析し公表		
	環境教育の実施及び環境情報の共有化	環境の情勢変化に対応した各種環境教育の実施・参加				・九州電力が主催する各種環境教育へ積極的に参加するとともに、各所でのEA21監査で適切な指導を行う		
		九電グループネットワークの活用による環境情報の共有化				・みらいNetの「九電グループ環境情報」により、環境情報を収集し社内共有化を図る		
	環境関連法令の遵守徹底	環境法規制等の特定				・環境関連法規等を特定し、遵守状況の洗い出し（棚卸し）を確実に実施		
		環境法規制等遵守状況の確認・評価				・環境関連法規等遵守状況の確実な把握と評価		





**九州林産株式会社**

〒815-0041

福岡市南区野間3丁目7番20号

TEL 092-562-3014